

23生産第2559号
平成23年7月4日

地方農政局生産経営流通部長
内閣府沖縄総合事務局農林水産部長
北海道農政部長

殿

農林水産省生産局農業生産支援課長

農作業中における熱中症に対する指導の徹底について

昨夏は記録的な猛暑となり、農作業中の熱中症事故が多発したところですが、気象庁の3ヶ月予報によると、今夏の平均気温も平年並みか高いとの予報となっていることから、農作業時の熱中症対策が重要となっています。

熱中症の発生は、梅雨明け後の蒸し暑い日など、身体が暑さに慣れていない時に起こりやすい傾向があることから、今後の暑熱環境下での作業に特に注意が必要です。

このため、農業者のほ場や施設内での熱中症による事故を防止するため、「農作業安全のための指針（平成14年3月29日付け13生産第10312号農林水産省生産局長通知）」に基づき、暑熱環境下での作業について、特に下記事項に留意の上、改めて指導されるとともに、今年から気象庁が発表する「高温注意情報」などにも留意し、熱中症に対して十分な対策をとるよう貴管下都道府県農政主幹部長あてに通知願います。

記

暑熱環境への対応

夏場等の暑熱環境下での作業は、熱中症（熱射病、熱けいれん、熱まひ）を生じるおそれがあるので、次の事項に注意すること。

ア 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。

気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に気を付けること。

- イ 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。
作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- ウ 屋内では遮光や断熱材の施工等により、作業施設内の温度が著しく上がらないようにするとともに、風通しをよくし、室内の換気に努めること。
作業施設内に熱源がある場合には、熱源と作業者との間隔を空けるか断熱材で隔離し、加熱された空気は屋外に排気すること。

(参考)

気象庁の熱中症関連サイト

「熱中症に注意 (<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kurashi/netsu.html>)」

農作業中の熱中症に注意しましょう!

～熱中症は適切な予防をすれば防ぐことができます～

猛暑だった昨年においては、梅雨明け直後に農作業中の熱中症事故が多発しています。熱中症を正しく理解し、予防に努めてください。

熱中症の予防法

熱中症の予防には、「水分補給」と「暑さを避けること」が大切です!



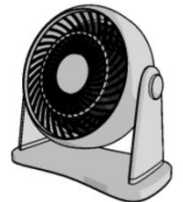
[暑さをしのぐ服装]

- 帽子の着用
- 通気性の良い衣類の着用



[水分・塩分補給]

- こまめな水分・塩分補給
- 気温の高い時間は作業をしない
- こまめな休憩



[熱中症になりにくい室内環境]

- ハウスや畜舎等の換気
- 遮光や断熱材の施工等による温度上昇の防止



熱中症になった時の処置は・・・



1. 涼しい場所に避難させる
2. 衣服を脱がせ、身体を冷やす
3. 水分・塩分を補給する
4. 自力で水を飲めない、意識がない場合は、直ちに救急隊を要請しましょう



注意していただきたいこと・お願いしたいこと

①暑さの感じ方は人によって異なります！高齢の方は特に注意が必要です！

- ・熱中症患者の約半数は65歳以上の方です。年齢を重ねると暑さや水分不足に対する感覚機能が低下し、暑さに対する身体の調整機能も低下しています。
- ・自分の体調の変化に気をつけ、暑さの抵抗力に合わせて、万全の予防を心懸けましょう。
- ・のどの渇きを感じていなくてもこまめな水分補給をしたり、暑さを感じなくても、日陰等を利用し、こまめな休憩をとるよう心懸けましょう。



②まわりが協力して、熱中症予防を呼びかけ合うことが大切です！

- ・一人作業を極力避け、二人以上での作業を心懸けましょう。熱中症の予防を呼びかけ合うことで、熱中症の発生を防ぐことができます。

③節電を意識するあまり、熱中症予防を忘れないようご注意ください！

- ・節電を意識しすぎるあまり、健康を害することのないようご注意ください。
- ・気温が高い日や湿度の高い日には、決して無理な節電はせず、適度に扇風機やエアコンを使用するようにしましょう。

問い合わせ先

農林水産省 生産局 農業生産支援課 機械開発・安全指導班

TEL：03-3502-8111（内線：4774）